

イメージ用語によるシルエットの分類化(4)
 —上着とスカートの組合せにおける色彩効果—

日本女大家政 ○上野清一郎 里見陽子 田辺典子

目的 前報で検討したツウピースという形態の特徴を考慮して、今回は上着とスカートのそれぞれに、異なる色彩を施した場合のイメージ効果を見ようと試みた。

方法 前回作成したシルエットについて、イメージに関して有意な分類基準となったのは、主としてスカート要因であった。そこで今回はこれらのシルエットにおいて、上着の要因は一定とし、スカート要因について前報同様に、A(スカートヒップ巾)2水準、B(すそ巾)3水準、C(スカート丈)4水準として、 $2 \times 3 \times 4 = 24$ 体とし、これに赤を基色とした次の組合せを作った。(上着—スカート)

赤—黄赤, 黄赤—赤 (類似色)

赤—黄緑, 黄緑—赤 (中間色)

赤—青緑, 青緑—赤 (補色)

したがってシルエットの組合せは、 $24 \times 6 = 144$ 体となり、これらについて5対のイメージ用語を用い、これを被験者(女子学生30名)によって5段階評価法で答えてもらいこれを数値化し、前回同様クラスター分析法によって解析した。

結果 今回のように赤を基色とした二、三の組合せでは、分類の主要因は「形態」となり、必ずしもイメージに有意に結びつく色彩要因は得られなかったが、それでも年令イメージ、調和イメージについては、シルエットの中分類において、色彩を要因としたパターン分類を得ている。